

世界遺産 X 新・世界7不思議・・・ペトラ遺跡

この6月宿願だったペトラ遺跡へ出かけた。2000年以上も前に建設された、この世界遺産は一時期人間の視界から隔絶されていたが、19世紀初頭スイス人探検家がその存在を公表して以来、今日では世界中の観光客の心を驚つかみにしている。

ペトラの街から切り立った谷間の砂地を、馬車やラクダの世話になることもなく、小1時間も歩くと、切割りの間からペトラ遺跡群最高級の岩の建造物が忽然目の前に神秘的な姿を表すのである。これこそ数々あるペトラの古代遺跡群のハイライトで、一躍映画「インディー・ジョーンズ」でも知られるようになった、あの岩壁に彫られた荘厳なエル・カズネ(宝物殿)である。

「ペトラ遺跡」は、2007年7月7日「マチュピチュ」や「万里の長城」とともに、「新・世界7不思議」のひとつにも認定された。現在ペトラ遺跡へは各種のツアーが催行されているが、首都アンマンから幾分遠隔地(約200km)のせいもあって、行きたいけれど行きにくい原因のひとつにもなっている。

1967年第3次中東戦争直後、ヨルダン軍兵士に突如身柄拘束されて以来45年ぶりにアンマンを訪れたこの機会に、ペトラへ足を伸ばしてみた。幸いペトラ見学のお陰で、「新・世界7不思議」もすべて訪れる幸運に浴することにもなった。話題のエル・カズネは流石に崖壁に彫られた巨大な秘宝なだけに、想像を超えるパワーフルなエネルギーが全身に迫り、その迫力にしばし圧倒された。

ペトラ遺跡群の立地領域は広大である。山上の古代修道院へ向う参道?から周囲の崖面を見回せば、まるで屋外博物館の中にいるようだ。数々の宝物殿、城塞跡、洞窟内の絵画、貴族の墳墓から庶民の土葬の跡地まで、恰も禁断の領域へ足を踏み込み古代アートを独り占めするかのごとくである。

もの珍しさも手伝って、登り道ではロバの背に乗ってみたが、このロバが断崖に沿った細道を体を揺すりながら登っていくのだ。とても景観を眺めるゆとりもなく、振り落とされまいと必死にロバの背にしがみついている不甲斐なさである。

ペトラ遺跡は、一般的にガイドブックやTVで紹介される目玉のエル・カズネだけだと思われがちだが、全遺跡群は遥かに壮大で歴史的にも文化的にも、考古学的にも、また地形的にも、実に奥が深いのである。ロバと自分の足で息もぜいぜい登って初めて、漸く修道院にたどり着くことが出来る。振り返って修道院から谷間を通して見下ろすペトラ周辺の乾いた大地は、突き抜けるような紺碧の空とも相俟って、インテリで逞しかった古代ナバテア人の生活空間をいやがうえにも想像させてくれるのである。

考古学へのノスタルジアを思い起こさせてくれた「世界遺産」への幻想的な旅だった。

(近藤節夫)